こんなまちがいいな！ まちづくりについての小学生の作文

市では平成３年に策定した「第３次向日市総合計画」が平成12年に目標年次を迎えることから、現在その改定作業を進めています。

総合計画は、将来のまちのすがたとそれを実現するための方向を示すもので、大変重要な計画です。

このため、新しい総合計画の策定にあたっては、より多くの市民のみなさんからご意見を聴き計画づくりを進めていきたいと考えています。

そこで、昨年１１月から本年１月にかけて、小学校５・６年生を対象に「向日市がどんなまちであって欲しいか」をテーマに作文を募集しました。その結果、８５名のみなさんから応募があり、いずれも向日市に対する夢と希望が語られています。

今回、その中から市が選んだ５編をご紹介させていただきます。

こんな町がいいな

細川　麻耶さん　寺戸町中ノ段

私は、休みの日におばあちゃんの家に遊びにいきます。

そこは、空気がおいしく、山や川が、見わたす限り続いていて、自然にかこまれた、小さな町です。しかも、車はその町に入っていくにつれて、どんどん少なくなっていきます。

それに、都会では、あじわえない、おもしろいことも、いっぱいあります。サルが山に登ってきたり、大きなカブト虫が家の中に入ってきたりなど、どれも興味津々でした。

最も私がびっくりしたことは、家にかぎをかけないということです。とまる時は、どろぼうが、入ってこないかと心配でした。

そして、私は夏のおぼんに、おばあちゃんの家へ、遊びにいきました。と中の道も、いつもとかわりなく、とても自然豊かでした。

が、私は、お父さんと、この町の人とのあいさつが、いつもみているのになぜか不思議に思えました。そして、私は、お父さんになぜかきいてみました。

するとお父さんは、こう言いました。

「お父さんは、ここに子供のころから住んでいたけど、町の人が、全員知り合いで、なぜなら会う人にはあいさつをしていたからだよ。」

私は、知らない人なのに、どうして笑顔でペコッとあいさつできるのかなと思い、私のすんでいる町が、こんなところだったら……。

想像すると、とても明るく活気にみちあふれて、会う人会う人が友達で、毎日がウキウキしてくるなぁ、と思いました。

もし向日市があいさつ習慣のついた町になったら、辺りが笑顔であふれて、おもわず見ている人も、ニコッとほほえんでしまって、向日市は、笑顔でみちあふれる町になると思います。

私は、こんな町がいいなぁ。

向日市の未来

丸山　愛由実さん　寺戸町瓜生

私はＪＲ向日町駅の近くに住んでいます。ベランダからながめるつうきんの景色は、タクシーと車と自転車と人が混雑していて、とてもみんなが急ぎすぎています。

もっと、駅前を整備したら、ＪＲを利用する人たちも心がゆったりすると思います。

そうすると、お年よりや小さな子も、近くにあるふれあい広場を安全で、きがるに利用できると思います。

だから、ぜひ駅前を整備してほしいと思いながらベランダからながめています。

私は前に、桂坂の野鳥公園に行ったときに、あまりにも緑が多く静かなので感動しました。向日市には駅が２つもあるので野鳥公園まではいかないと思うけれど、便利さと自然がマッチするような市になったらいいと思います。

私たち市民ができることは、タバコ、空カンやゴミのポイすてをなくすことです。

そうして市がきれいになっていくと、星がきれいに見えます。天気がよく、星がきれいな夜は、外灯以外の電気を消してほしいです。

そして、みんなが自然の美しさにふれられるような市になったらいいと思います。

私がこの作文を書いたのは、ちょうど国語の勉強で『守る、みんなの尾瀬を』を勉強していて、ちょうど、そんな気持ちになりました。

私は本当は、尾瀬沼のような所で、本で読んだ『アルプスのハイジ』のハイジのような生活をするのが夢だけど、生まれ育った向日市を夢に近づけたらいいなぁ、といつも、思っています。

自分の夢をかなえることも、大事だけど、向日市の夢をかなえることも、大切なことだと思います。

向日市の『今』と『未来』

難波　由衣さん　寺戸町飛龍

今の向日市だけでなくほとんどの都市で足りないものは『身近な自然』です。

お父さんの話などでも、

「子供のころは学校から帰ったらすぐ虫とりなんかに行ってたのに、今はなぁ。」

というようなことを聞きました。

私も身近に自然があることはすごく大切なことだと思います。もちろん自然があれば動物、こん虫などもすみついてきます。そういうことを実際に見たりすればすごく楽しいし、いい勉強になると思います。

それに大きな森林の中にいると気持ちいいし、落ちつきます。緑があって気持ち悪い人はいないと思います。

だから、向日市に大きな公園をつくってほしいです。ただの公園じゃなく緑がいっぱいの公園がいいと思います。自然の中で思いきり遊べば、心が豊かになるからです。

二つめは、『だれにとっても住みやすいまちづくり』です。特に障害をもった人、お年よりなどの生活のことです。

テレビなどでよく耳にする障害者の人たちの声。向日市はこの声を実現できるようなまちになってほしいです。

私達にとって、何でもないようなことを障害のある人たちはとても大変なこととして見ていることもあります。

例えば、歩道の段差です。車イスの人は、なかなか上がれないんじゃないかと思います。

自動販売機にも問題があると思います。足の悪い人、つえをついている人は、しゃがめず出てきた物をとることができないと思います。

『だれにとってもすみやすいまち』を実現できたらとてもいい所になると思います。

でも一番大切なのは、一人一人の気持ちです。向日市の人、全員がいろんな人に対して思いやりをもつことは、全ての始まりであって、一番強いものだと思います。

このようなことは、私一人でなく、他の人も望んでいることだと思います。だから早く実現して向日市を、全国のどの都市よりも美しく、笑顔のあふれるようなところにしてほしいです。それから、美しくなった向日市を手本に全ての都市がよくなってほしい。

将来、そんなところに私は住みたい。

こんな町にしたい

富田　紘矢さん　上植野町南開

ぼくの住んでる町にはいろんな施設があったり町をあげての行事もたくさんある。

それにこの町には、大きなけいりん場があるしとてもにぎやかな町だと思う。

ここは、ほんのわずかな間、国の中心地でもあった。今までにも町を大きくするために、図書館などができてにぎやかになった。

それにけいりん場があるから、たくさんの人が来るようになって町は、よりいっそうにぎやかになった。

ぼくは今のままでもじゅうぶん町は大きくなったと思う。人口もとてもふえた。そして最近ぼくら近所の家が、いろいろと新しく建てなおされるようになった。ぼくの家も三年ほど前に建てなおした。町の景しきもいろいろと変わってきているんだなぁと思う。

そして何よりも緑がふえるといいなぁと思う。春に電車の窓から外を見たとき、きれいなさくらの木がいっぱいたっていると、町のふんいきももりあがると思う。

この町には、山といってもあまり木がぼおぼおにはえているような山じゃないから、一本の木もむだにすることはできないと思う。

緑があると、この町にきた人たちは

「フウー。」

と心がやすまるようにしてくれる。

これから21世紀になって緑がなくても、かんきょうにわるくないシステムや物質がもしかしたらできるかもしれない。

でも、緑は、緑のいいところがたくさんあると思う。

町をもっと大きくする一番の方法は緑がふえるということだ。そうするといつかけいりん以外のことでこの町にたくさんの観こう客が来るかもしれない。そうして町はとってもにぎやかで大きな町になるだろう。

そしていつか電車の窓からこの町を見て思わず降りてしまうような町ができるといいなあと思う。

こんな町がいいな

池野　雅一さん　寺戸町山縄手

ぼくは、みんなが、楽しく元気にすめる町にしたいです。その中でも、特に、障害をもつ人が、便利で不自由なく暮らせる町にしたいです。

なぜなら、ぼくは、小さいころの病気のせいで右耳がきこえません。それで、時々、いやがらせや悪口をいわれることがあります。

そんな時は、いつもいやな気分になります。

ぼくは、片方の耳が、聞こえないだけなので、知らない人が見れば、普通の人に見えます。でも、足が不自由とか、手が動かないとかいう人が、町の中を歩いたり、買い物をしていたりしている時に、なぜか、人が、よけていくのを見ると、ぼくもとてもいやな気持ちになります。

でも、この前、町を歩いていた時、車いすに乗った人が、なにか、レバーみたいな物の場所をかえようとしていたら、横から、知らない人が、その人に親切に聞いて、ていねいに手伝ってあげていました。

ぼくはそれを見ていて、障害のある人をさける人ばかりじゃなくて、ちゃんと、助けてくれる人もいるんだと思って、少しうれしくなりました。

ぼくは、車いすに乗った人たちが通るのに、自転車が歩道をうめつくしていて、ふつうの人でも、簡単には通れないのに、車いすに乗った人や、目の見えない人は、ぶつかったりこけたりして、とてもあぶないと思います。

そして、障害をもつ人が一番苦労するのは、階段です。車いすに乗った人が階段を上がるためには、だれかに助けてもらわないと上がれません。それなのに、手伝ってくれる人が少ないです。

だから、ぼくは、障害のある人も、ない人も、みんなが元気で、楽しく暮らせる町がいいです。　ぼくは、こんな町がいいなぁ。